

## 相模の古代集落遺跡の評価に向けて

大 上 周 三

関東の集落調査の草分けは、1948年の東京都志村遺跡と思われる。相模地域の集落調査のさきがけは、1970年の鳶尾遺跡であろう。竪穴住居と共に掘立柱建物も多数発見され、東日本の集落＝竪穴住居という従来の観念を一変させた。

これを契機に71年に本郷遺跡、73年上浜田遺跡、76年に宮ヶ瀬遺跡群、77年に向原遺跡の調査が開始された。本郷遺跡では、大型の建物群、合わせて多彩な遺物も多数出土し、集落といえども決して一律でないことを認識させた。向原遺跡は、掘立柱建物が住まいの主要構成たてものであることを印象づけた。山間部の宮ヶ瀬遺跡群は、平地部のそれとは趣を異にし、竪穴住居を主体とする集落群であることが明らかになった。80年代に入ると81年に宮久保遺跡、83年に南鍛冶山遺跡、84年には草山遺跡、田名稻荷山遺跡、台山遺跡と立て続けに調査された。南鍛冶山遺跡では多量の墨書土器と竪穴状遺構等から性格論議に華が咲いた。一方、田名稻荷山遺跡、台山遺跡では小型の竪穴住居と一般的な掘立柱建物で基本的な住まい構成になることを明確にした。90年代には90年に藤沢市上ノ原遺跡、92年に原口遺跡、そして95年からは現在も継続されている平塚市真田北金目遺跡群と調査事例は積み重ねられた。この他にもそこかしこで大小の古代集落の調査は絶えず行われ、研

究者は膨大な資料を手にする事となった。

ところでこの30年を振り返ってみた時、集落の一時の規模、集落の継続性あるいは性格といった実態は明らかにされただろうか。また古代史サイドからまずは“竪穴建物”と呼ぶべきと提言されている竪穴住居は、文字通り機能は住まいと言い切れるのか。さらに掘立柱建物の機能は明らかにされただろうか。つまり、いまだ集落の本質の部分が解明されていないという現実直面する。

近年どちらかという国府・郡衙などの華やかな調査成果に研究者の関心が向いているが、日頃人々が社会生活を送る集落は地域の基層を形成するものであり、集落なくして地域社会は成立しないのである。この集落の正当な評価なしには景観としての地域史を描くことは不可能のように思える。

成熟した社会を迎え、かつてのような右肩上がりの発掘調査状況にブレーキがかかった今、我々は蓄積された膨大な資料を白日の下で見つめ直し、資料に新たな息吹を吹き込む時ではないだろうか。そして市民に熱く語りかけていくことが我々に求められているのである

## 第27回 神奈川県遺跡調査・研究発表報告

去る10月19日（日）、横浜市開港記念会館講堂において、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会にご後援いただき、第27回神奈川県遺跡調査・研究発表会を開催しました。

秋の文化行事目白押し日程の中ではありましたが、会員・非会員併せて230名ほど（当会調べ）の参加（写真1）がありました。

発表数は、遺跡調査発表11件、遺跡調査紙上発表が1件の12件で、小林謙一さんを講師とした記念講演1件です。当日の開催要項は別頁のとおりです。

当日の内容を進行に倣って報告します。

9：30の受付開始後、寺田兼方会長の開会挨拶（写真2）に続き、午前中には、1. 藤沢市遠藤山崎遺跡—縄文草創期前半に属する遺物群の集中出土—と題して戸田哲也さんと、2. 川崎市麻生

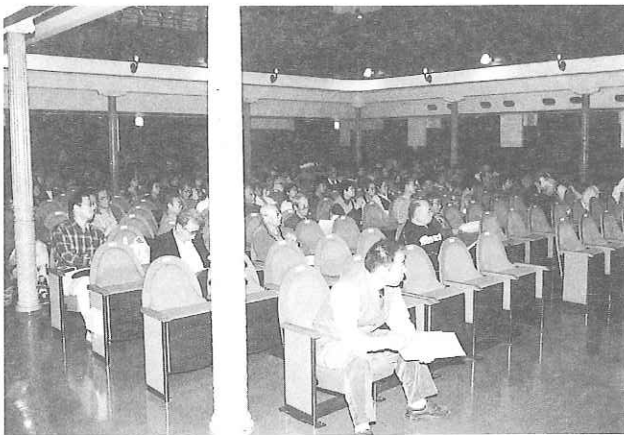


写真1 会場風景



写真2 寺田会長開会挨拶

区万福寺遺跡No.1 遺跡—草創期前半隆起線文期の遺物集中—を今泉克己さんに、お二人には縄文草創期遺跡を発表いただきました。両遺跡とも、豊富な隆起線文土器・石器が検出されています。3. 古鶴見湾岸の縄文前期貝塚—横浜市茅ヶ崎・西ノ谷貝塚の調査成果—と題して、坂本 彰さんは港北ニュータウン内の縄文前期茅ヶ崎貝塚・西ノ谷貝塚について改めて報告されました。4. 平塚市真田北金目遺跡群—縄文時代後期の水場遺構—と題して、上原正人さんには、隣接する王子ノ台集落遺跡と関連深く、アク抜き・水晒し場と理解される「礫敷き水場遺構」を発表いただきました。

5. 川崎市犬蔵地区遺跡群元石川—1 遺跡—弥生時代後期朝光寺原式土器出土の小規模な環濠集落を確認—と題して、宮重俊一さんには、検出事例の少ない弥生時代後期朝光寺原式土器の出土する環濠集落についてご発表いただきました。

昼食後、「AMS<sup>14</sup>C年代測定を利用した縄文時代研究の新展開」と題して小林謙一さんに記念講演をいただきました（写真3）。小林さんは、縄文土器や縄文集落、江戸在地系土器などの研究を精力的に進めてこられていますが、今回は、近年携わられているAMS加速器による<sup>14</sup>C年代測定値・校正暦年代と縄文土器の年代・編年について研究成果をお話いただきました。

記念公演後は、6. 茅ヶ崎市下寺尾西方A遺跡—弥生時代中期の環濠集落と高座郡衙の発見—と題



写真3 記念講演講師 小林さん

## 開催要項

開催日：2003年10月19日（日）

会 場：横浜市開港記念会館

〔開会挨拶〕 9：40～9：45

〔調査発表〕 9：45～10：10 藤沢市 <sup>えんどうやまざき</sup>遠藤山崎遺跡

10：10～10：35 川崎市麻生区 <sup>まんぶくじ</sup>万福寺遺跡群 No. 1 遺跡

10：35～11：10 古鶴見湾岸の縄文前期貝塚

11：10～11：35 平塚市 <sup>さなだ</sup>真田・<sup>きたかなめ</sup>北金目遺跡群

11：35～12：00 川崎市 <sup>いぬくら</sup>犬蔵地区遺跡群 <sup>もといしかわ</sup>元石川-1 遺跡

〔昼 休 み〕 12：00～13：00

〔記念講演〕 13：00～14：00 「AMS<sup>14</sup>C年代測定を利用した縄紋時代研究の新展開」  
総合研究大学院大学 博士後期課程 小林 謙一 先生

〔調査発表〕 14：00～14：25 茅ヶ崎市 <sup>しもてらおにししかた</sup>下寺尾西方A遺跡

14：25～14：50 厚木市 <sup>いいやまくぼ</sup>飯山久保古墳群

〔休 憩〕 14：50～15：00

〔調査発表〕 15：00～15：25 鎌倉市 <sup>むりょうじ</sup>無量寺跡

15：25～15：50 鎌倉市 <sup>ごごうます</sup>五合榎遺跡（<sup>ぶっほうじ</sup>仏法寺跡）

15：50～16：15 小田原市 <sup>うまやくるわ</sup>史跡小田原城跡 馬屋曲輪

16：15～16：40 近現代考古学の可能性

〔閉会挨拶〕 16：40～16：45

〔誌上発表〕 厚木市 <sup>かみやま</sup>神の山古墳

〔図書交換会〕 9：30～15：00 横浜市開港記念会館 講堂

して宍戸信悟さんに、相模國高座郡衙と推定される建物群と弥生中期集落について発表いただきました。西方A遺跡は神奈川県によって保存されることが決まり、今後の整備・活用が期待されます。7. 厚木市飯山久保古墳群-上久保第1号墳・第2号墳・第3号墳の調査-について、中村喜代重さんには小鮎川流域の後期古墳群飯山久保古墳群の調査成果を発表いただきました。

8. 鎌倉市無量寺跡-鎌倉時代末期の鎌倉式庭園遺構-と題して、森 孝子さんには鎌倉時代末期に造成された無量寺庭園遺構の調査成果を発表いただきました。同庭園池址は移築保存が行われる予定です。9. 鎌倉市五合榎遺跡（仏法寺跡）と題して、福田 誠さんには鎌倉七切通の1つである極楽寺切通の五合榎と呼ばれる防御施設と仏法寺の調査成果を発表いただきました。

10. 小田原市史跡小田原城跡馬屋曲輪と題して、大島慎一さんには、史跡小田原城跡二の丸南東部分にあたる馬屋曲輪の史跡整備調査の成果を発表いただきました。

11. 近代考古学の可能性―三浦半島における貝塚の調査から―と題して、藤山龍造さんには、三浦半島沿岸部漁村近現代貝塚の学術発掘調査成果と非都市部における近現代史研究に果たす考古学的手法調査の意義について発表いただきました。

また、紙上発表として「厚木市神の山古墳」と題して、北條芳隆さんには、厚木市小野に所在する40mクラスの前期前方後円墳の地形測量調査・範囲確認調査の成果を執筆頂きました。

発表終了後、伊藤秀吉副会長の閉会挨拶をもって、遺跡調査・研究発表会を終了しました。

なお、会場となりました開港記念会館講堂の控室では県内7団体の参加により、図書交換会が併せて開催されました。

遺跡調査・研究発表会も今回で27回目を迎え、四半世紀を越える回数を重ねてきました。筆者は第3回から参加してきたと記憶しておりますが、今回の本会に限らず、このような遺跡調査・研究発表会に参加して最近感じるがあります。それは、かつての遺跡調査・研究発表会で認められたような「活気」が無くなってきているように感じられることです。近年、神奈川県内でも主要な市では、市独自で各年の遺跡調査・研究発表会を開催する事が多くなっています。また、遺跡調査の情報も瞬時に伝達される環境も整いつつあります。それらのことすべてが、その理由となっているとは思われませんが、今後の遺跡調査・研究発表会のあり方を考えるべき時期に来ているのではないのでしょうか。

遺跡調査・研究発表会終了後には、慣例に従い、有志ら約30名で中華街にて懇親会を行ったのは言うまでもありません。

(発表会担当 小池 聡)

## お知らせ

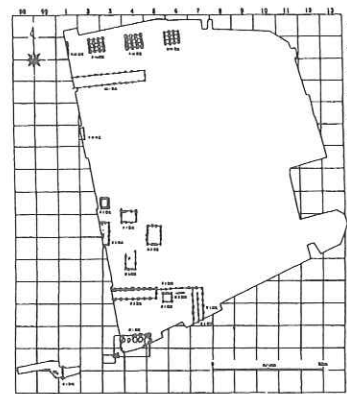
発表会に参加できず、当日の資料をご希望の方は、まだ若干残部があります。第27回神奈川県遺跡調査・研究発表会発表要旨希望の旨を明記して下記宛て郵便振替でお申し込み下さい。または平成16年3月7日開催予定の考古学講座の会場でも入手できます。代金は会員の方が1部300円、非会員の場合1200円になります。また送料は全国一律210円になります。

加入者名 神奈川県考古学会

番 号 00240-9-71208

(問合せ先 天野賢一 045-842-9888)

## 第27回 神奈川県遺跡調査・研究発表会 発表要旨



開催日 2003年10月19日(日)  
会 場 横浜市開港記念会館

主催 神奈川県考古学会

後援 神奈川県教育委員会

横浜市教育委員会

平成15年度考古学入門講座

## 考古から近世・近代へのアプローチ

—神奈川県内の遺跡を中心にして—

主催 神奈川県考古学会

発掘調査という考古学的方法は、文献研究が盛んな近世・近代の研究においても大きな成果をあげています。最近では現代を含めた研究も注目されています。

そこで今回、神奈川県内を中心に研究成果を紹介し、考古学研究の調査対象の広がりをも多くの皆様に知っていただくために入門講座を企画いたしました。

ぜひ、この機会に考古学を再認識されてみてはいかがでしょうか。

日時 平成16年3月7日(日) 午前9時40分～午後4時35分  
(開場：午前9時30分)

場所 かながわ県民センター 2F ホール

参加費 無料

—発表次第— (予定・仮題)

9:40 開会

午前の部 9:45～12:00

9:45～10:00 主旨説明

10:00～10:30 近世小田原城・町屋

諏訪間 順氏

10:30～11:00 向井将監正方夫妻の墓

中三川 昇氏

11:00～11:30 宝永火山灰にかかわる遺構

渡辺 清史氏

11:30～12:00 安政三年における軟弱地盤での住居基礎工法事例

村澤 正弘氏

特別講演 13:00～14:00 江戸・陶磁器・加賀前田家

堀内 秀樹氏

午後の部 14:00～16:30

14:00～14:30 宮ヶ瀬遺跡群出土の西洋陶磁器に関連して

市川 正史氏

14:30～15:00 東京湾要塞

野内 秀明氏

15:15～15:45 考古学からみた近現代の漁村

藤山 龍造氏

15:45～16:15 戦争遺跡

大坪 宣雄氏

16:15～16:30 総括

桜井 準也氏

16:35 閉会

### 【会場案内】

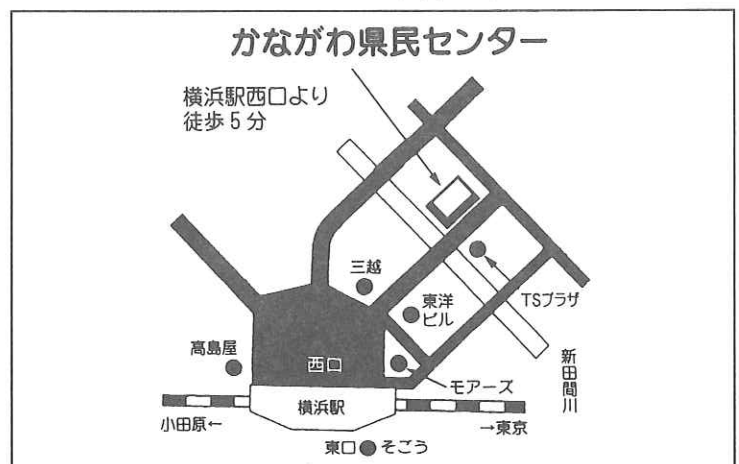
かながわ県民センター

横浜駅西口から徒歩5分

〒221-0835

横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2

TEL 045-312-1121 (代表)





# 中世小田原城を訪ねて

小田原市教育委員会 佐々木 健策

## 1 所在・交通

所在地：小田原市城山ほか

交通：JR小田原駅から徒歩15分

## 2 はじめに

小田原城は戦国時代に関東に覇を唱えた後北条氏の居城であり、江戸時代には江戸の西を守る要の城として著名です。現在は国指定史跡に指定され、江戸時代末期の姿を復元した史跡整備が進められています。そのため、皆さんが訪れる天守閣を備えた小田原城は、江戸時代末期の姿ということになります。今回は戦国時代に後北条氏が本拠とした頃の小田原城をご案内しようと思います。

## 3 中世小田原城の歴史

小田原城はいつ頃築かれたお城なのでしょう。文献上の初見は『鎌倉大草紙』という書物で、康生2年(1456)に大森氏が小田原城を使い始めたという記述が確認されます。また、それ以前にも足利尊氏が小田原城と思われる場所に陣を張っていることから、小田原城の立地が古くから軍事的要

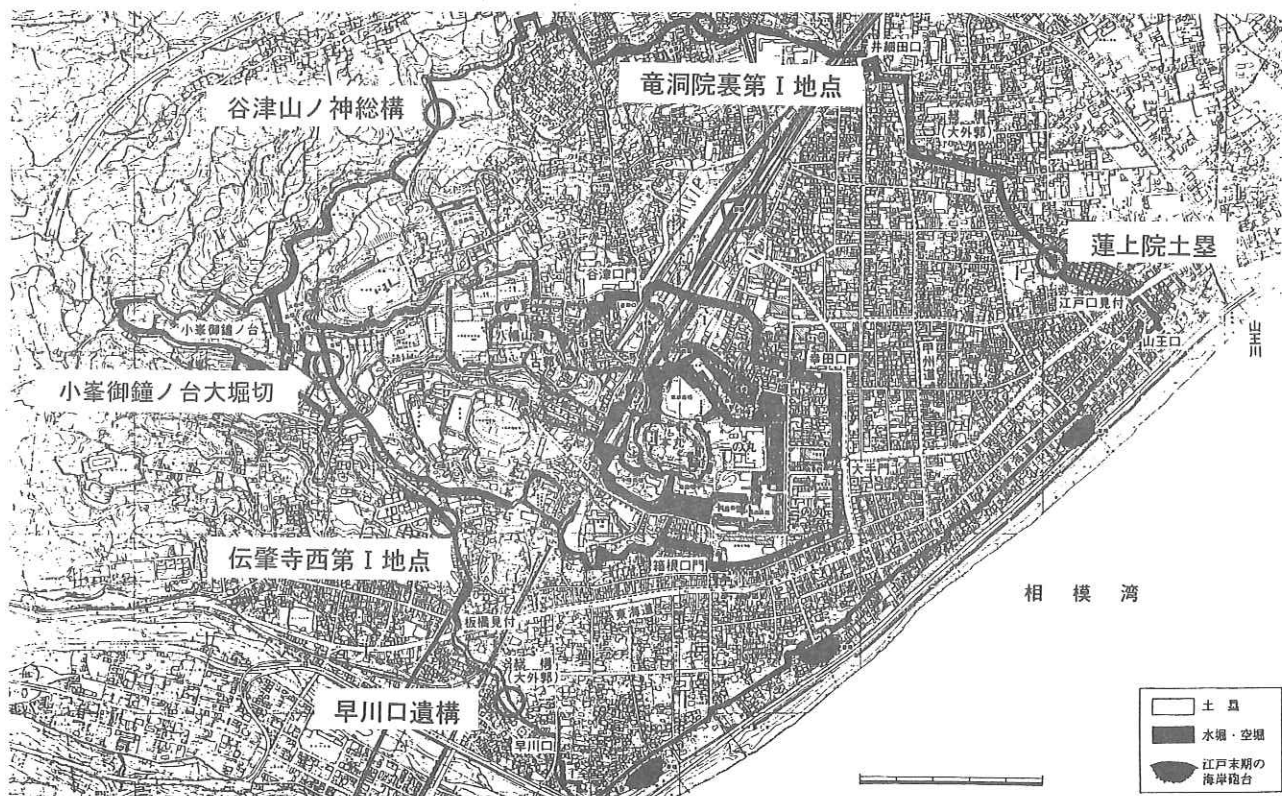
所であったということを窺うことができます。しかし、小田原城周辺の発掘調査では15世紀以前の遺構・遺物は極めて少ないため、考古学的には小田原城の起源は明確ではないというのが実状です。

そのような小田原城が、歴史の表舞台へと姿を現すのは、北条早雲(正式には伊勢宗瑞)の登場以降ということになります。早雲は、文亀元年(1501)までに小田原城を手中に収め、相模への足がかりを築きます。その後、永正15年(1518)に家督を継いだ氏綱が葦山から小田原へと本拠地を移し、小田原城は名実共に後北条氏の本城となりました。小田原は、これより豊臣秀吉の軍門に降るまでの約70年間、関東の首都として発展していきました。

## 4 中世小田原城の位置と規模

後北条氏の頃の小田原城の中心は、現在の城跡公園よりも西側、県立小田原高等学校周辺であったと考えられています。この辺りは八幡山といい、八幡山を中心とした古い時期の小田原城関連遺構を小田原城八幡山古郭と呼んでいます。

この頃の小田原城については、天文20年(1551)に小田原を訪れた南禅寺僧東嶺智旺が、書状に



第1図 小田原城全体図 (1/50,000)

「高館は巨麗にして、三方に大池あり」と、三方を大きな池(水堀)に囲まれた小田原城の姿を描写していることから推察することができます。このような景観は、発掘調査においても確認されており、小田原城の周囲では大きな池や湿地の存在を思わせるような泥質な土質を検出することができます。

その後、小田原城は永禄4年(1561)に長尾景虎(上杉謙信)、同12年には武田信玄に攻め込まれ、両者ともに籠城戦で退けますが、これを期に相次いで城の改修工事を行うようになります。永禄9年には、1,255人を動員した大普請が行われ、永禄10年・12年にも「鋤もっこ」を各人に持参させた大規模な人足の徴収が行われています。更に、度重なる改修の後に、天正15年(1587)までには三の丸新堀、天正18年までには周囲9kmにおよぶ堀と土塁を巡らせた総構を構築していきました。

天正18年、後北条氏は、このような大規模な総構を頼りに豊臣秀吉率いる約148,000もの大軍を相手に籠城戦を展開しましたが、三ヶ月の後に降伏開城し、その歴史に幕を閉じました。

## 5 中世小田原城の遺構

八幡山古郭や総構では、数地点で発掘調査が行われています。昨年度、かながわ考古学財団が行った県立小田原高等学校の調査で、堀底に堀障子と呼ばれる障壁を持つ堀が確認されたことは、新聞等にも取り上げられ、記憶に新しいことと思います。これまでの調査でも総構の堀や小峯御鐘ノ台大堀切、三の丸新堀などで障子堀が検出されていますので、その成果をご紹介します。

まず、総構北側に位置する竜洞院裏第I地点では、堀幅6m、深さ2.2mの総構堀が確認されました。すでに上層は削平されているため、本来の堀の規模は解りませんが、削平されていない高位面と比べると城内側との比高差は15m前後であったものと推察されます。また、総構西側の伝肇寺西第I地点では、初めて総構堀の全貌を確認することができました(写真1)。確認された堀幅は上端で15.8m、堀底で6.35m、深さは10.2mを測り、堀底には高さ約1.7mの堀障子がありました。伝肇寺西で検出された堀も、土塁はすでに削平されていたために定かではありませんが、単純に堀を



写真1 伝肇寺西第I地点検出の総構堀

掘った土で土塁を築いたとしても城外から総構の堀を越えて城内に至るには、少なくとも15mを越える比高差を克服しなければならないでしょう。

このように、発掘調査によって明らかとなった総構の遺構からは、豊臣勢が攻め倦ねた小田原城の堅固さを窺うことができ、これらの遺構は後北条氏城郭の集大成とも言えるでしょう。

## 6 中世小田原城探検

ここで紹介した中世小田原城の遺構は、開発行為に伴う発掘調査で検出されたものであるため、現在では観察することができません。しかし、小田原城でも未だに大規模な堀と土塁の痕跡を残している場所があります。早川口遺構や江戸口見付北側の蓮上院土塁などがその一つです。総構北側の谷津山ノ神付近では、堀のラインが茶畑となっていて堀の面影を観察することができ、3本の堀切からなる小峯御鐘ノ台大堀切の景観も圧巻です(写真2)。皆さんも、天守閣が建つ近世小田原城だけでなく、後北条氏の本城である中世小田原城へも訪れてみてはいかがでしょうか。また違った小田原城の姿を再発見できるものと思います。



写真2 小峯御鐘ノ台大堀切東堀の現況

## 2004年1～3月の催し物情報

### 【連続講座・講演会】

#### 横浜市歴史博物館・研究講座

- 「西ノ谷貝塚—5000年前の暮らし—」 坂本 彰  
(財)横浜市ふるさと歴史財団
- 「二ノ丸遺跡・四枚畑遺跡・川和向原遺跡」 山田光洋(同上)
- 日時：1月11日(日) 14:00～15:30  
会場：横浜市歴史博物館  
定員：170名(先着順)  
参加費：500円(資料代)  
問い合わせ：横浜市歴史博物館(045-912-7777)

#### 考古学ゼミナール「神奈川の考古学この10年」第1～7回

- 会場：神奈川県立埋蔵文化財センター研修室  
受講料：各回無料(要事前申し込み)  
問い合わせ：(財)かながわ考古学財団(045-252-8661)
- 第1回 「旧石器時代」 諏訪間 順(小田原市教育委員会)  
日時：1月14日(火) 14:00～15:30
- 第2回 「縄文時代」 戸田哲也(玉川大学)  
日時：1月20日(火) 14:00～15:30
- 第3回 「弥生時代」 浜田晋介(川崎市市民ミュージアム)  
日時：1月23日(金) 14:00～15:30
- 第4回 「古墳時代」 押方みはる(海老名市役所)  
日時：1月27日(火) 14:00～15:30
- 第5回 「古代」 明石 新(平塚市博物館)  
日時：1月30日(金) 14:00～15:30
- 第6回 「中世」 田代郁夫(東国歴史考古学研究所)  
日時：2月3日(火) 14:00～15:30
- 第7回 「近世」 山口剛志(小田原市教育委員会)  
日時：2月5日(木) 14:00～15:30

#### 県博講座「史料解読を通して探る寺社の歴史と信仰」第1～5回

- 会場：神奈川県立歴史博物館  
定員：各回70名(要事前申し込み・多数の場合は抽選)  
問い合わせ：神奈川県立歴史博物館・企画普及課  
(045-201-0926 e-mail:kikaku@kanagawa-museum.jp)
- 第1回 「古代寺院の建立と資料」 國平健三(神奈川県立歴史博物館)  
日時：1月18日(日) 13:30～15:30
- 第2回 「中世寺社の特権と社会」 古川元也(同上)  
日時：1月25日(日) 13:30～15:30
- 第3回 「戦国期の寺社と宗教政策」 鳥居和郎(同上)  
日時：2月1日(日) 13:30～15:30
- 第4回 「近世社会と寺社」 鈴木良明(金沢文庫学芸課)  
日時：2月8日(日) 13:30～15:30
- 第5回 「神仏分離政策と地域」 寺寄弘康(神奈川県立歴史博物館)  
日時：2月15日(日) 13:30～15:30

#### 横浜市歴史博物館 開館9周年記念特別講演会

- 「中世都市を掘る(仮題)」 大三輪龍彦(鶴見大学)  
開催日：2月1日(日)  
定員：無料・180人  
問い合わせ：横浜市歴史博物館(045-912-7777)

### 【展示会】

- 平成15年度「横浜市指定・登録文化財展／横浜の遺跡展」  
会期：2003年12月13日(土)～2004年1月18日(日)  
会場：横浜市歴史博物館  
問い合わせ：横浜市歴史博物館(045-912-7777)

#### 考古速報展「発掘された日本列島2003」

- 会期：2004年1月24日(土)～2月22日(日)  
会場：相模原市立博物館  
問い合わせ：相模原市立博物館(042-750-8030)

#### 桜土手古墳展示館特別展「秦野の原像Ⅳ—鶴巻台地の遺跡群」

- 会期：2004年2月1日(日)～3月28日(日)  
会場：秦野市立桜土手古墳展示館  
問い合わせ：秦野市立桜土手古墳展示館(0463-87-5542)

### 【遺跡調査発表会】

#### 第21回 藤沢市遺跡調査発表会

- 日時：2月21日(土) 13:00～16:30  
会場：藤沢市民会館 小ホール  
特別講演：「藤沢の縄文草創期の遺跡」 戸田哲也(玉川大学)  
同時開催：「第4回 藤沢市遺跡調査速報展」  
会場：藤沢ルミネプラザ6階 藤沢市民ギャラリー(無料)  
\*発表会の後、調査者による解説があります(16:30～16:45)  
懇親会：18:00～20:00(参加自由、当日受付にて申し込み)  
問い合わせ：藤沢市教育委員会生涯学習課(0466-25-1111 内線5313)

### 【研究会】

#### 第9回 東北・関東前方後円墳研究会大会

- 日時：2月28日(土) 12:30～17:00・29日(日) 9:00～16:30  
会場：川崎市民ミュージアム  
参加費：資料代(事前申し込み不要)  
記念講演：「東日本の古墳出現期の研究史回顧と成果」  
小林三郎(明治大学)  
基調講演：「オオヤマト古墳群における古墳出現期の様相」  
今尾文昭(奈良県立橿原考古学研究所)  
\*講演会は28日(土) 12:30～
- 研究会内容：基調報告5本、資料報告6本、シンポジウム  
問い合わせ：川崎市民ミュージアム内 浜田晋介(044-754-4500)  
※各参加方法等をご確認のうえ、ふるってお出掛けください。

## 考古かながわ 第28号

- 発行 神奈川県考古学会  
発行日 2003年12月22日  
編集者 秋田かな子・安藤文一・  
河野真知郎・渡辺 務  
印刷 (有)湘南グッド  
発行者 神奈川県考古学会会長 寺田兼方  
〒251-0043  
藤沢市辻堂元町4-17-4 やよい荘102  
郵便振替 00240-9-71208